

# クラス運営での ICT の活用

エトヴェシュ・ロラード大学

小野 久禎

## 1. はじめに—ELTE 日本学科の ICT 環境の現状

現在、教室内で積極的に ICT 活用していくべきであると言われているが、ICT の環境は教育機関によってさまざまである。

筆者が勤めているエトヴェシュ・ロラード大学（以下 ELTE）では、インターネットに接続されているパソコンは講師室にしかなく、Wi-Fi はあるにはあるが、キャンパス内全域に届いているわけではなく、日本学科がある棟では Wi-Fi の接続が不可能である<sup>注1</sup>。このような事情のため、パワーポイントを使う授業をするにしてもデータを授業の前にダウンロードしておかなければならないといった手間がかかる。

本発表では、このような ICT 環境が悪い中でも ICT をどのように効果的に使うことができるかを考察した。

## 2. ELTE 日本学科におけるフェイスブック利用の経過とグループページの目的

筆者が ELTE で働き始めていた 8 年前、筆者はまだフェイスブック（以下 FB）をあまり利用しておらず、主に E メールを使い学生とやり取りをしていたが、FB 上で友達申請をしてくる学生が年々増えていった。そして、いつのころからか 9 月になると新入生が大量に友達申請をしてくるようになった。

学生が教師に友達申請をしてくる理由は、教師とのつながりを深めたいのではと考え、国際交流基金ブダペスト文化センターにおける日本語講座を参考<sup>注2</sup>に 2016 年「ELTE 日本学科日本語・日本文化研究」と「ELTE 日本を楽しむ」というグループを立ち上げた。

2017 年になると日本学科の学生と日本からの留学生とのつながりを作るという目的で「ハンガリーに留学している日本人のグループ」<sup>注3</sup>を開設した。

このような形でグループページをしてきたが、この 2 つのグループページだけでは、重要な投稿がすぐに下の方へ行ってしまう、重要な情報を探しにくくなるという問題が生じた。そこで、2018 年月からは日本語の授業ごとにグループページを作成し、FB を通してクラスに関する情報提供や学生間のやり取りができるようにし、重要な投稿が下の方へ行かないようにした。

## 3. グループページの目的

### 3.1. ELTE 日本学科日本語・日本語日本文化研究

「ELTE 日本学科日本語・日本文化研究」ではテストの案内や授業で取り扱ったトピック、学生の日本語学習や日本学研究に役に立つ情報、留学情報といった情報を取り扱う。

グループでは、教師から学生への一方通行の情報の提供ではなく、学生もグループページを使い積極的に情報提供をしたり、意見交換をしたりする場になることを期待している。また、卒業生もこれらのグループで在学生と同じ情報を共有し、日本に関心を持ち続けられ、在校生とのつながりを作るツールになることも目的の一つとしている。

このグループでは、日本学関係の情報強化の目的から、ELTE の学生・卒業生・教員だけでなく、

国際交流基金専門家、客員教授など研究関係の情報を提供してくださりそうな方もメンバーになっていた。しかし、このグループで流す情報の中には試験関連や学生指導に関する情報といたあまり外部に知られたくない情報を扱っていることから、学外の方がメンバーにすることが問題になった。そこで、2017年より学外からの加入申請を受け付けず、学内関係者のみをメンバーにすることにした<sup>注4</sup>。

### 3.2. ELTE 日本を楽しむ

「ELTE 日本を楽しむ」では、アニメや J-POP といった日本のポップカルチャーや日本発のニュース、日本に関係のあるイベント情報など日本語や日本学の授業には直接関係がないが、日本により一層興味を持てる情報を発信している<sup>注5</sup>。また、就職・アルバイトといった情報もこのグループで取り扱う。

「ELTE 日本学科日本語・日本文化研究」同様、このグループでも教師から学生への一方通行の情報の提供ではなく、学生間、卒業生との交流も期待している。また、情報をより興味深いものにすることから、日本・日本語に関する学生の興味関心を高める情報を提供してくれそうな学外の方にも加入を可能にしている。

このグループでは学生間の気軽な交流を期待していたが、情報のほとんどが教師から学生への情報提供になっている。現在、学生からの情報の発信と学生間の情報のやり取りを増やすため、学生の投稿に関しては「いいね」ではなく、「超いいね」をクリックし、コメントを添え、投稿意欲を高める努力をしている。このことにより、劇的に学生からの情報発信が増えたわけではないが、徐々に効果が表れている<sup>注6</sup>。

### 3.3 ハンガリーに留学している日本人グループ

このグループページは、ハンガリーに留学している日本人学生を対象にし、ELTE 日本学科で開催されるイベントや授業のゲストのお願いなど日本学科の学生と日本人留学生在が交流できる情報の提供を目的としている。日本人留学生の多くは正規留学生ではなく、交換留学をはじめとする短期留學生が多いため、毎年新しいグループを作り、個人情報自分とはまったく関係のない人に流れないようにしている。

### 3.4 各クラスのグループページ

授業の目的により以前からグループページを使い情報の伝達をする授業が存在したが、2018年9月よりすべての授業にグループページを開設することにした。その主な理由は2つである。

第一に、すべての授業の情報を「ELTE 日本学科日本語・日本語日本文化研究」に投稿すると、その授業を履修している学生にとっては重要な情報でもその授業を履修していない学生にとっては重要でない情報が多く、自分とは関係のない情報が「ELTE 日本学科日本語・日本語日本文化研究」に溢れてしまう。そして、自分にとって重要な情報がページの下の方へ追いやられてしまい、重要な情報過ぎしてしまう可能性が高くなる。

第二に、学生の面目を保つことである。例えば、授業では、すべての学生が教師の指示通り課題を提出した、試験でよい成績を取れるわけではない。そのため、時にはクラス全体に課題の提出を催促や試験の寸評、再テストの案内といったことをする必要がある。ハンガリーでは、日本のように先輩・後輩といった概念はないが、やはり、上級生が自分たちの問題を下級生に知られることは

気分のいいものではないと予測できる。また、下級生にしてみても上級生に悪いところを見せたくないのではないだろうか。

主に以上の2点を考慮し、グループを分けることにした<sup>注7</sup>。なお、各クラスのグループページは、学生は自分が履修しているクラスのグループページしか原則参加できないが、教師はすべてのグループページに加入している。こうすることにより、同僚がどのようなことを授業で教えているかわかるようにし、教師間の協力やいいアイデアがあれば自分の授業でも取り入れるといったことができるようにしている。<sup>注8</sup>

#### 4. SNSを導入したことによる効果

前述のようにFBをコース並びに授業運営に用いるようになったが、これにより以下のようなよい点があったといえる。

日本学科内での情報伝達において、学外からの情報を学生に提供するのが迅速化し、また、学外からの調査依頼にも容易にできるようになった。FBによる情報伝達は、イベントの開催や案内において、教師はただFB上に告知をするだけで情報が学生にいきわたるようになった。そのため、教師がイベントを開催またはイベントに協力するときの負担が軽減された。

また、授業に関する新しいアイデアが思いついたら、次の授業を待たず、その瞬間に学生へ提案・相談ができるようになった。FB導入前は、次の授業に学生に提案・相談しようと思っても、その日の授業の成り行きで学生に話をする機会がなくなってしまうこともあった。加えて、学生への提案・相談の時間を授業中にすることは、実質の授業時間を減らしてしまう。一方、FBによる伝達は、インターネットさえつながっていれば、いつでも、どこでもできるため、うまくできるか自信がない提案でも学生に積極的にできるようになった。また、授業で利用したハンドアウトなどもFBに投稿できるので、学生の板書写しの時間を減少させ、議論や問題演習、発表といったその他の作業に時間をさけるようになり、欠席者もFBを見ればその日何を勉強したかがわかるようになった。

授業の改善では、新しいアイデアをより積極的に導入できるようになっただけでなく、以前より多くの情報を学生へ提供できるようになった。ELTEでは1つの授業は週1回90分である。時間が限られた中で日本語を教えなければならないが、その日の授業に関係のある事柄に関する情報を学生に提供したいと思うことが少なくない。FB利用前は、授業時間を考慮し、割愛しなければならないことが多かったが、FBを用いれば、そのような情報を制限なく学生に提供できるようになった。そのため、授業に関係のある事柄だけでなく、授業に関連のあるトピックに関しより一層知りたいという学生向けの情報も提供できるようになった。

FBもEメールもICTに属するが、FBはグループ全体に情報を提供しやすいということから、データの保管でもよい点が見られた。Eメールでもグループ全体にメールを送ることができるが、過去にどのようなやり取りがあったかを調べる場合、メール一つ一つを確認する必要があった。その情報がグループメールではなく、学生からのメールの返信であった場合、その情報を検索するのは、より面倒な作業になった。一方、FBでは、ただグループページをロールダウンするだけで過去の情報を見つけることができ、過去の情報を確認しなくならなくなったとき、必要な情報を検索するのが以前より容易になった<sup>注9</sup>。

教師からの情報提供がしやすくなっただけでなく、学生からの情報発信も以前より活発になってきている。例えば、学生がイベントの案内や求人情報を得たときに情報をFBで提供してくれ

るようになり、留学中の学生による日本で撮影した写真の投稿も増加している。そのため、とくに「日本を楽しむ」のグループページで日本に関する様々な情報が得られるようになった。

学生からの投稿には、上記のような情報だけでなく、授業で伝達したことでよくわからなかったことへの質問や学生間で違う情報が入り乱れたとき、情報を確認するための投稿も来るようになった。以前は、このような問い合わせは、個人的にEメールで来ることが多く、似たような内容のメールが複数の学生からきて、それぞれに対応する必要があった。一方、FBへの投稿による問い合わせに対しては、その投稿に教師が回答えすれば、当該学生だけでなく全学生に正しい情報が伝わることになる。学生にしてみれば、同じ疑問を持っている学生が質問の投稿をしていれば、自分が同じ質問を教師にする必要はなく、また、教師も同じ回答を何度もする必要がなく、時間や労力の無駄を省くことができる。

FBのグループページは教師の個人情報保護でも一役買っている。グループページ作成前は、9月になると多くの新入生がFB上で教師に友達申請をしてきた。FBをプライベート用と大学用で使い分けていない限り学生からの友達申請を受け入れるのは気が引けていた。しかし、FBでグループページを作成後、学生からの友達申請が激減した。グループページがあれば、必要な情報のやり取りはそこで完結すると学生が考えている表れではないかと考えているが、何であれ、教師のプライベートな活動もグループページの利用で恩恵を受けている。

最後にクラスごとのグループページであるが、3.4.で述べた通り、授業で必要な情報が記載されている投稿が下に行ってしまう検索しにくくなることがなくなり、また、クラス内に情報が限定されることから教師も言いにくいことをFB上で言いやすくなった。

以上のことから、FBの利用は、情報伝達を正確かつ迅速に行うことを可能にし、より限られた授業時間をより有効に使えるようになり、学生のさまざまなニーズに応えやすくなったとすることができる。つまり、ICT環境が貧弱な教室環境でも教室外でのICTを用いた活動がICT貧弱さを100%ではないがそれを補完することができると言えるのではないだろうか。

## 5. 今後の課題

このようにFBの利用はさまざまなよい点があるが、課題がないわけではない。

まず、第1にセキュリティーの問題である。3.3.で述べた通り、ハンガリーに留学している日本人留学生を対象にしたグループでは、個人情報が見ず知らずの人に流れないように年度ごとにグループを作り直している。しかし、情報を悪用しようとする者は今まででは考えつかない方法で情報を悪用している。そのため、グループページを管理していく者として、個人情報の管理方法は十分注意し、必要なら投稿規則やメンバーの加入条件・退会規定の変更などをしていかなければならない。

次に運営しているグループそのものの課題であるが、現在までのところ教師から学生への情報提供が圧倒的に多い<sup>注10</sup>。そのため、3.2で述べた通り、学生の投稿には「いいね」ではなく「超いいね」をクリックし、コメントを添えるなど、学生の投稿へは必ずリ spons をして投稿意欲を高めるように心がけている。

卒業生に関しては、FBの利用自体が2016年ということもあり、グループに入っている卒業生が少ないが、在校生が卒業していくうちにその母数が増え、卒業生から在校生に研究や留学、就職の役に立つ情報提供が増えることを期待している。そのためには、卒業生にとっても有益な情報をグループページが提供していかないと考えられる。

- 注1 本発表時は、日本学科のある棟では Wi-Fi が利用できなかったが、2019 年 2 月より Wi-Fi がつながるようになり、現在では、事前ダウンロードの手間が省け、また、画像だけでなく映像も容易に授業で使えるようになった。
- 注2 国際交流基金ブダペスト日本文化センターの日本語講座では各クラスのグループページが FB 上にあり、教師と学生が自由にやり取りできるようになっている。
- 注3 留学生は短期留学生が多いことから、このグループは年度ごとにグループページを作成している。
- 注4 学内関係者に特化することに決定したが、すでに加入されていた学外の方には引き続きメンバーになっていただいていた。しかし、2019 年 2 月 1 日より学内情報をより気兼ねなくやり取りするために学外の方には退会していただくことになった。
- 注5 2019 年 2 月より「ELTE 日本学科日本語・日本文化研究」は授業や試験、留学、日本語・日本学関係のイベントなどの案内とそれに関するやり取りに特化し、そのほかの情報を「ELTE 日本を楽しむ」でやり取りをする、と両グループページの目的を変更した。
- 注6 2018/19 年後期より学生からの情報発信が以前よりもかなりみられるようになった。
- 注7 発表当時はクラスごとのグループページの運用が始まったばかりで、その状況について発表することができなかった。運用開始から半年が経過した現在、ほかのグループページに比べ学生からの質問や情報発信が多くなっている。学生にしては、大きなグループに情報発信をするより、クラスという小さなグループで情報発信する方が情報発信をするハードルが低いのかもしれない。また、一部の授業では、このグループページに課題の提出をさせているが、グループページに課題を提出し、ほかの学生に自分の課題を見られるのが嫌だという苦情を現在までのところ受けていない。
- 注8 各グループページで教師が投稿した教材は、ほかの教師が他の授業でも利用可能であるという雰囲気も教師間でできている。
- 注9 あるトピックに関し学生が個人的に問い合わせをしてくることもあるが、FB ではそのトピックの投稿に対しコメントが書けるので、よほど他の学生に知られたくない情報でない限り、学生はコメントを使って問い合わせをしてくるので、検索が E メールよりしやすい。
- 注10 2018/19 年度前期は教師からの情報提供が圧倒的に多かったが、後期からは学生からの情報提供を増えており、また、卒業生も徐々に投稿をするようになってきている。